

■演題9 腹腔内臓器把持用の機器 FJ(Free Jaw) Clip の LECS での使用経験

代表演者：藤井秀則 先生（福井赤十字病院 外科）  
共同演者：〔福井赤十字病院 外科〕川上義行、我如古理規  
〔福井赤十字病院 消化器科〕山崎幸直

【はじめに】近年 Reduced port surgery の概念が注目され、細径鉗子や腹腔内での組織把持展開器具などの開発がされている。我々は、鉗子の代用ができるような腹腔内での臓器把持用の機器を地元眼鏡枠製造メーカー CHARMANT と開発し、前回の本研究会で発表した。今回は LECS で使用したので報告する。

【製品概要】通常用いる腹腔鏡用鉗子で操作可能な着脱式の機器で滅菌リユース可能なステンレス製で経済性にも留意している。全長を短くして臓器のつり上げを有効にし、把持力が強く且つ組織挫滅が少ないものを開発した。5mm ポート用と 12mm ポート用の 2 サイズで FJ Clip と名付け昨年末に発売開始し、米国、EU での薬事承認も得られた。

【症例】70 歳代女性、体上部後壁の径 30mm の GIST。臍部で中央のくぼみは温存するように足側に 1.5cm の縦切開。筋膜の欠損孔から気腹針で気腹後 Optical View 法で 12mm 用トロッカーを挿入。肝左葉の圧排には 12mm 用 FJ-Clip とペンローズドレーンを用いた。胃壁の把持牽引は FJ Clip 2 個用いることでポートの追加なく腫瘍周囲の胃壁の欠陥処理は容易であった。内視鏡による ESD テクニックで腫瘍の肛門側 3 分の 1 週切開後、腹腔鏡下に超音波凝固切開装置を用いて完全切除行った。胃壁の閉鎖には自動縫合器を用いたがその際の胃壁の把持にも FJ Clip は有用であった。

【まとめ】FJ Clip は LECS を含め種々の Reduced Port Surgery に有効と考えられる。